

# 令和6年度 府中市立白糸台小学校学校経営計画

府中市立白糸台小学校  
校 長 堀越 新一

## 1 はじめに

令和6年、年明けすぐの能登地方の大震災は、予測困難な時代を象徴するできごとであった。1日も早い復興を願う。今回の災害を通して、地域のつながりの大切さを改めて実感することになった。学校は社会に開かれた学校として、日常から子供を核に地域、保護者をつなぐ役割を果たすとともに、子供を安心して通わせることのできる信頼を得る必要がある。

令和5年度に新しく「こども家庭庁」が置かれ「こども基本法」が施行されるなど、日本全体で子供を大切にしようという機運が高まっている。しかし全てを学校で担うことは不可能で、特に家庭への支援等については関係諸機関との役割分担が不可欠である。ただ同法の理念の一つである、子供の基本的人権の保障、個人としての尊重は、学校でもこれまで以上に求められる。個人の尊重のためには学力調査、児童アンケート等の結果を分析し、課題の解決だけでなく、子供のもつよさを伸ばし、また子供のニーズに応えていくことも重要である。

昨年の全国学調はじめアンケート調査によると、「話合いで考えを広め、深めている」子供が平均比明らかに多いなど、問題解決的な学習に取り組む姿勢がある。他にも「地域をよくするために何かをしたい」「外国の人と友達になり外国のことについてもっと知りたい」と考える子供、また、「タブレット端末が学習に有効である」と実感している子供も多い。読書好きも多い。

令和5年の6月に閣議決定された「教育振興基本計画」で示された5つの基本方針を受け、また子供のよさを伸ばしニーズに応えるために、地域に貢献する取組、外国語活用の機会、タブレット端末を有効に活用した学習、読書への関心を高める時間を保障していく。さらに令和3年に示された「令和の日本型学校教育」を実現するために、習熟に合わせて指導方法・教材等を工夫するなど指導の個別化、児童が個に応じた学習を主体的に選択できる学習の個性化を図る「個別最適な学び」と、体験的な学習や他者との話合いで考えを深める「協働的な学び」をバランスよく展開し、協働しながら自ら未来を拓いていける自立した人間の育成を図っていく。教育の目的は、時代の変容に関わらず子供たちに真の学力（将来幸福に生きるための力）を育成することであると考えている。一人一人の自己肯定感、自己有用感を高めるため、よさを認め、それを価値付けて伸ばすという実践を重ね、「自分にはよいところがある、自分の存在が他の人にとって意味がある」と実感させていく。

## 2 学校の教育目標

日本国憲法、教育基本法の精神および人間尊重の精神を基調とし、平和を愛し、ふるさと府中に誇りをもち、心身共に健康でたくましい、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる、予測困難な時代をよりよく生きる子供を育てる。

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

## 3 目指す学校の姿（校長の理念）

教育委員会、家庭・地域・関係機関との連携のもと、子供が安全に、安心して通え、自己有用感をもち自ら学んでいくことのできる学校目指して

笑顔あふれるみんなの学校

— 認めて ほめて 伸ばす —

### （1）子供の笑顔

友達や教員と楽しく学べ、希望をもって通える学校

## (2) 家庭・地域の笑顔

地域・保護者から信頼され、協力を得られる学校

## (3) 教職員の笑顔

常によりよい授業を考え、協働して子供の成長を喜び合える学校

## 4 目指す子供の姿 ～子供の笑顔のために～

①知・すすんで学ぶ子 → 児童が自らの考えをもち、友達と学び合う中で、新しい発想・豊かな発想を生む

「分かった！楽しい！自分には得意なところがある！」

「学校で友達と学ぶことが楽しみ！」

②徳・助け合う子 → 児童が互いのよさを認め合い、生かし合う

「自分も友達も大切に、一緒によりよい学校生活をつくる」

「相手の立場に立って考える」

③体・たくましい子 → 児童が自らの健康、安全に関心をもち、自己管理をする

「自分の命は自分で守る」「最後まで粘り強くやり遂げる」

## 5 目指す教職員の姿 ～家庭・地域の、そして自身の笑顔のために～

① 児童を共感的に理解することから児童理解を深め、よいところを見付け価値付ける。

② 実践を通して学び合い、授業力を高める。

③ 学級担任から学年担任に発想を変え、分掌全体で児童に寄り添っていく。

④ 職務の自覚をもち、服務事故を絶対に起こさない、起こさせない。

⑤ 全教職員共通理解し組織的に個々の児童のニーズに合った指導及び支援を行う。

⑥ 校内環境・教室環境を整え、安全で清潔な校内環境とする。

⑦ 府中第二中学校と第十小学校との小中連携教育の取組（二中学区コミュニティ・スクールとして地域の学校、生涯学習の拠点としての学校を目指す）。

⑧ 積極的に授業公開、情報発信を行い、保護者・地域の理解を得ながら、相互に信頼し合い高め合う（地域コーディネーターを起点として学習支援、PTA行事、図書ボランティア、課外クラブ活動支援等で協力いただき、情報発信、地域行事等への参加で地域とつながる）。

## 6 実現のための方策

東京都教育施策大綱、教育振興基本計画、及び第3次府中市学校教育プランに基づいた教育、さらに令和6年度以降の府中市立小中学校の教育課程編成に向けたグランドデザインに示された「きづく」「つながる」「たしかめる」教育の推進を図る。また、スクール・コミュニティを核とし、家庭・地域と連携し、教育活動の充実を図り、子供たち、保護者・地域、教職員の笑顔あふれる学校をつくる。その基盤として、教職員自ら授業力向上を図る。組織的に取り組む校内研究の充実、教員個々の学びであるマイ・キャリア・ノートによる専門性向上研修等、積極的に取り組んでいく。併せて、行事、分掌等の精選を進め、働き方改革を含めた教育環境の充実に努める。

### (1) 中・長期的目標

#### ① 学力・体力の向上

・主体的・対話的で深い学びの実現 → 「どのように学ぶか」を重視

・地域・家庭と連携した学習習慣の確立 → タブレットを活用した家庭学習

・体育授業の充実と外遊び、運動習慣の定着 → 休み時間の外遊び

#### ② 教職員の資質向上

・学年で学習、生活指導を進める意識の向上 → 学級担任としてだけでなく

・個別最適な学びと協働的な学びのための指導法の工夫と改善 → 校内研究の活性化

・危機管理意識と人権感覚の向上 → 防災マニュアル、情報管理ルールの共通理解

- ・前例踏襲でない効率的な勤務への転換 → 交換授業、先行実践から学ぶ
- ③ 保護者・地域との連携
  - ・スクール・コミュニティ協議会を基盤とした地域教育資源の活用 → 豊かな人材・施設
  - ・積極的な情報発信と学校評価を生かした教育活動の推進 → 学校から地域へ
  - ・新しい連携の在り方の確立 → PTA 活動精選の流れのなかで
- ④ 小・中連携教育の推進
  - ・9年間を見通した「学び」と「育ち」の系統的指導について共通理解の確立
  - ・児童、生徒の交流を基盤とした小中連携
  - ・挨拶が飛び交う中学校区
- ⑤ 特色ある教育活動の充実
  - ・児童の健全育成を図るための和太鼓クラブ、タグラグビークラブ、白小合唱団の活動継続
  - ・府中けやきの森学園との通年交流を継続する。

## (2) 今年度の取組目標

- ①学習、生活指導を学年で進め、若手教員の育成を図る。
- ②教員個々の発想を生かした新しい取組にチャレンジする。
- ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」とのバランスのよい学習を追究する。
- ④府中市制70周年を受け、ふるさと府中に誇りをもてる取組を工夫するとともに、保護者、地域に積極的に情報発信し、地域に感謝を示す具体的な取組を実施する。
- ⑤不登校児童の学習を保障する場を設け、組織的に対応する。
- ⑥言動を価値付け、認めて、ほめて、自己有用感を高め、学校が楽しいという児童を増やす。
- ⑦持続可能な課外クラブ活動への協力

## (3) 重点目標および達成のための方策〔教員〕

|      | 目 標                   | 達成のための方策                                                                                                                                                       |
|------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習指導 | 1 確かな学力の定着を図る。        | 1－①基礎・基本的な知識・技能に関するワークテスト、ベーシックドリル診断シートの正答率8割以上とする。<br>1－②一人1台タブレットを日常的に授業や家庭学習で活用する。<br>1－③家庭学習で、漢字、計算を中心に計画的に取り組ませる。                                         |
|      | 2 体力の向上を目指す           | 2－①中、昼どちらかの休み時間には外遊びをさせ、運動への意欲を高める。<br>2－②体育朝会、持久走縄跳び週間の充実を図る。<br>2－③体力調査結果を整理し、課題を明確にして体育指導の改善につなげる。                                                          |
|      | 3 児童が主体的に学習を進める授業をつくる | 3－①週案に単位時間のめあてと「発」「対」「決」「表」のいずれかを記入し、学習の見通しをもたせ、単位時間の振り返りを実施し成果を実感させる。<br>3－②小グループの学び合いを通して新しい考えを構築する学習を一単元の中に一場面以上設定する。<br>3－③掲示物を学習に沿って適宜更新し、学びやすい教室環境を整備する。 |

|              |                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              | 4 学習内容・体験活動の見直しをする。                                                                                         | <p>4－①未来へつなぐ府中 2020 レガシーの取組として、近隣諸施設、人材を活用した学習を年間1回以上実施する。</p> <p>4－②英語 EnjoyWeek 等を活用し、英語によるコミュニケーションの機会をもたせる。</p> <p>4－③ふるさと府中に誇りをもつ子供を育てるための学習に取り組む。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 生活指導<br>進路指導 | <p>1 自己肯定感、自己有用感を高める。</p> <p>2 規範意識を高める。</p> <p>3 いじめの芽や欠席児童への早期対応で、不登校児童を増やさない。</p> <p>4 安心・安全な学校をつくる。</p> | <p>1－①子供がよさを発揮する場面を意図的に設け、行動を価値づけほめることで、自分によさがあると思う子供9割以上とする。</p> <p>1－②課題については生活夕会、校内委員会を活用するなど、組織として解決を図る。</p> <p>1－③自他の命を大切にする意識を高める取組を学期に一度以上実施する。</p> <p>2－①「みんなの生活」「タブレット活用のきまり」等について共通理解を図り、徹底する。</p> <p>2－②すすんで挨拶する子供9割以上とする。</p> <p>2－③地域や家庭と連携し、公園の使い方など校外生活の規範意識を高める。</p> <p>3－①年間3回のアンケート調査等はいじめの芽を把握、月1回のいじめ対策委員会を実施し、いじめ未解決をゼロとする。</p> <p>3－②欠席児童家庭には電話連絡、長期欠席している家庭と原則週2回は連絡を取り、サポートルームやICT機器の活用を工夫する。</p> <p>3－③SSW、みらい、はばたき等関係諸機関と積極的に連携し、家庭支援を行う。</p> <p>4－①アレルギーについて共通理解を図り、アレルギー事故を起こさない。</p> <p>4－②毎月の避難訓練の想定を新たに工夫するなど実態に沿った防災教育を推進する。</p> <p>4－③毎月の安全点検・安全指導を充実させる。</p> <p>4－④男女混合名簿、整列とするなど、性の多様性に配慮した教育活動を進める。</p> |
| 学校運営         | <p>1 職務の効率化を図る。</p> <p>2 メリハリのある職務の遂行を目指す。</p>                                                              | <p>1－①早めの提案と事案決定の徹底、Tコンパス活用、支援員の協力、会議の時間短縮などで月勤務時間外在校45時間を超えない。</p> <p>1－②スクラップ&amp;ビルトの意識をもち、簡素化できる取組を自己申告で一つ以上挙げる。</p> <p>1－③カリキュラムマネジメントにより、効果的かつ効率的な学習を進める。</p> <p>2－①会議、委員会は開始時刻に始める。</p> <p>2－②各主任は、週毎・月毎の分掌職務の達成状況を主幹教諭に報告する。</p> <p>2－③登校した児童を昇降口、または教室で迎え1日を始める。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|             |                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | <p>3 学年の機能の向上を図る。</p> <p>4 特別支援教育の視点での指導について、全校で取り組む。</p>                 | <p>3－①勤務時間内に設定した学年会で分掌での検討内容や授業進度、学年児童についての共通理解を図りながら教育活動を推進する。</p> <p>3－②担任と専科教員等が連携協力し、学習進度等を確認し子供の指導にあたる。</p> <p>3－③道徳を中心に交換授業や合同授業に積極的に取り組み、他学級児童への理解を深める。</p> <p>4－①校内委員会と生活夕会を充実させ、必要児童の支援シートを作成し、支援員を含め組織的に対応する。ひばり通級の児童については新たな連携型個別指導計画を作成、有効活用し、巡回教員と共通理解を図る。</p> <p>4－②教室前面掲示の整理で過剰な情報をなくす、事前に見通しをもたせるなど特別支援教育の視点で授業を進める。</p> <p>4－③特別な支援を要する児童の指導を、支援員と連携し組織的に進める。</p>                                                  |
| 特別活動<br>その他 | <p>1 児童一人一人の自主性の伸長を図る。</p> <p>2 家庭・地域との連携を図る。</p> <p>3 特色ある教育活動を推進する。</p> | <p>1－①児童の発想を生かした創造的なクラブ活動、委員会活動とする。</p> <p>1－②縦割り活動を推進し下学年の目標となるように高学年の意識を高め、下学年には異年齢交流の楽しさを味わわせる。</p> <p>1－③年間計画に沿って学級活動（学級会）に取り組む。</p> <p>2－①学校ブログで各分掌から月2回以上情報を発信する。</p> <p>2－②見守り活動の感謝する、地域環境整備に協力するなど、地域への活動に取り組む。</p> <p>2－③9年間を見通した学習、教職員の相互理解、児童、生徒の交流を核とした小中連携を進める。</p> <p>2－④幼稚園、保育園との連携を継続する。</p> <p>3－①発達段階に沿って全学年で系統的にけやきの森学園児童との交流を行う。</p> <p>3－②課外クラブの活動に協力する。</p> <p>3－③青少対行事、課外クラブ活動の応援なども含めた、地域行事に年間1回以上参加する。</p> |
| 研究<br>・研修   | <p>1 校内研究を積極的に推進する。</p> <p>2 若手教員の育成を図る。</p>                              | <p>1－①研究の全体構想を明確にして計画的・組織的に進める。</p> <p>1－②「個別最適な学び」と「協働的な学び」を授業実践を通して提案し合う。</p> <p>1－③市研究奨励校発表を視野に研究を進める。</p> <p>2－①新人育成教員と指導教員を中心に、組織全で新規採用教員の育成を図る。</p> <p>2－②OJT 研修を活用するなど、主任教諭中心に若手教員の育成に取り組む。</p>                                                                                                                                                                                                                              |

|  |                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>3 教員の資質向上を図る。</p> <p>4 教育公務員としての自覚をもち、自己啓発に努める。</p> | <p>2－③校内研分科会授業、事前授業等の授業者とし、指導技術を高める。</p> <p>3－①全教員マイ・キャリア・ノートに登録し、夏季研修会など計画的に研修を進める。</p> <p>3－②職層に応じた研修の充実を図る。</p> <p>3－③積極的に off-JT 研修に参加できるように、校内の協力態勢を整える。</p> <p>4－①服務事故ゼロとするために、服務に厳しく、気付いた点は互いに注意し合う。</p> <p>4－②服務事故防止研修で自らを振り返り、服務事故に関する情報等について把握し、常に高い意識をもつ。</p> |
|--|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(4) 重点目標および達成のための方策〔行政系〕 ※下線は教員も

|        | 何を                                                                                | どのように                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 職務目標   | <p>1 予算・決算</p> <p>2 会計</p> <p>3 教材・教具</p> <p>4 安全管理・福利厚生</p> <p>5 服務規律・職場のルール</p> | <p>1－①5年先を見通して、予算編成を行う。</p> <p>1－②児童のためにという優先順位を考える。</p> <p>1－③予算が決定次第、早めの執行に努める。</p> <p>2－①健全な会計の執行を行う。</p> <p><u>2－②学年会計簿を確実に作成し、明確に記載されてあるか組織的に確認する。</u></p> <p><u>2－③年間を通した集金計画を保護者に伝え振込集金とし、現金集金を最低限とする。</u></p> <p><u>3－①タブレット導入による紙教材の精選、物価高騰への配慮など、保護者私費負担増とならないよう教材の見直しを図る。</u></p> <p><u>3－②責任者を明確にし、備品管理を徹底する。</u></p> <p>3－③不要な物は手続きを行い廃棄する。</p> <p><u>4－①毎月の安全点検で学校の施設・設備の点検を行う。</u></p> <p>4－②修理、修繕に向け速やかに手続きをとる。</p> <p>4－③教職員の福利厚生の説明や支援を行う。</p> <p>5－①自ら服務の厳正の範を示す。</p> <p>5－②常に職場のルールの共通理解を図る。</p> <p>5－③学校経営支援部として事務室と職員室の情報共有を図る。</p> |
| 能力開発目標 | <p>1 法令や制度の改正等について学習する。</p> <p>2 職務に必要な知識・技能を高める。</p> <p>3 一歩進んだ仕事の実現に取り組む。</p>   | <p>1－①法令の周知徹底に努める。</p> <p>1－②新しい情報は全教職員で共有する。</p> <p>1－③若手教職員への指導・助言を行う。</p> <p>2－①研修会等に積極的に参加する。</p> <p>2－②研修会で学んだことを、広く伝える。</p> <p>2－③研修会で学んだことを、実践に生かす。</p> <p>3－①学校経営支援部等で新たに目標を立て、新しい職務を担うようにする。</p> <p>3－②職務の効率化を常に検討する。</p> <p>3－③協調性を大切にしながら、意欲ある職場の雰囲気づくりに努める。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                               |

